

2025年冬 TC 技術検定 2級使用情報制作ディレクション[DR] 実技試験の出題意図

ディレクション試験の実技問題は、「担当と工数管理」、「目次構成」、「制作ツールの評価」、「要件事項の分類」の4課題が出題された。問題形式は、計算、選択式が多く、記述は少なかった。ただし、難易度の異なる課題が取り混ぜて出題されているので、時間の配分に注意が必要である。また、学科問題では出題できない応用力が問われているので、直観や記憶力ではなく実務経験が必要なものばかりである。

【課題1】

工作機械の新規マニュアルの担当選択と生産性を考慮した日数（工数）計算が題材。工程ごとに担当と作業量、担当に該当するスタッフの生産性の表が提示され、スタッフの割り当てと、生産性を重視した作業日数を計算する。続いて、担当者が途中で交代した場合に、その後のスタッフ割り当てと日数を求め、前述との差異を求める。費用計算がないので、交代スタッフを間違えないよう計算すれば解答できる。

【課題2】

スマホアプリと連動したカメラ付き冷蔵庫の新規マニュアルが題材。市場としては新規参入のため、既存のマニュアルを調査し、目次項目を洗い出し、分類再構成する。検討事項から、大項目を決定し、大項目に入る中項目を選択する。既成概念に捕らわれることなく、検討事項の条件をよく読めば、大項目と中項目の判別ができ、解答はできる。

【課題3】

サーバーログ監視ツールのFAQページの制作用ツールの選定が題材。導入費用やランニングコスト、編集や管理機能など7つの観点に、重要度が設定され、3つのツールを比較する。評価の条件に従って決定表を作成し、ポイントを計算する。システムの画面機能一覧と条件に基づき、目次構成のタイトルを埋めていく。その結果から、最適な制作ツールを選定する。必須条件を認識できれば解答できる。

【課題4】

空気清浄機に新機能がついた新製品が題材。製品に関するさまざまな情報が集められ要件事項としてリストになったものを、利用者に関する情報、使い方に関する情報、法令・規格に関する情報などに分類する。情報のとらえ方によって、どちらに分類するか迷うものもあるが、各情報を読み込み、立場を考えると解答できる。

2025 年冬 TC 技術検定 2 級使用情報制作実務[MP] 実技試験の出題意図

制作実務試験の実技は、「説明文案の作成」「図と説明文の作成」「図の校正」「多言語冊子の台割」の 4 課題で、「図の校正」を除くと過去に出題されたものの改題であった。問題形式は、説明文案の作成、作図と説明、校正、台割と、制作実務に欠かせないスキルが含まれていた。いつもであるが、文案や作図では、問題文の情報量が多いわりに解答欄が少ない。一つ一つに配点が大きいので、小さな間違いが致命的な減点になる可能性がある。慎重に情報を読み取り、確実に解答することが求められている。学科問題では出題できない、表現力、応用力が問われているので、記憶力ではなく実務経験が必要なものばかりである。

【課題 1】

AC 電源を使ったラジオ付き目覚まし時計が題材。以前に出題された内容の改題である。機能仕様と設定方法の説明から、指定されたラジオの選局を設定する手順を記述する。すでに説明文が書かれている箇所があるため、それらをつなぐように、表記を条件に合わせて記述する。情報量が多いが、解答に必要なものに厳選されている。画面遷移と説明文の両方を、執筆ルールに従って記述することを守れば解答はできる。

【課題 2】

体組計の利用者情報を設定する操作説明のサンプル原稿が題材。説明文と画面表示を同時に作成するようになっているが、操作のはじめ 5 ステップと最後の 3 ステップを除いて、解答する箇所以外は空欄となっている。それらを自分で埋めながら解答欄に該当する箇所を記述する。また画面表示のルールが「水平線と垂直線だけで表現」と書かれているが、これは 7 セグメントディスプレイといわれるもので、電卓などで使われている。これに気づかず、図形表示に普通の数字を記載すると減点となる。まず画面遷移を作り、説明文を埋めれば解答できる。

【課題 3】

日本語、英語、中国語、韓国語の印刷媒体を合本するページ割が題材。以前に出題された内容の改題である。表に日本語と英語、裏面に中国語と韓国語を印刷する。12 ページあったものを 4 ページに集約し、4 か国語で 16 ページとする。英語版は天地を逆転して最終ページから割り付ける。これらの条件から、集約するページを抽出し、各ページに何を割り付けるか全 16 ページに何が入るか指定する。どれがセットになるか、英語は反転だけでなくページが逆順になることに気づけば解答できる。

【課題 4】

モバイルバッテリーの取扱説明書が題材。各部の名称の図が書かれた 1 枚ものを、校正ルールに従って指摘する。イラストの描き方（引き出し線や参照順など）のルールが細かく指示されているため、それを含めて校正の指示を入れる。用紙に書かれた本文も含め、執筆ルールや用語にも注意しながら、一つ一つ確認していけば解答できる。

